

シンポジューム資料
「御岳雪洞埋没事故」

柴田 隆宏

1. 山行概要

場所：御嶽山（アイゼン合宿）

行動記録概略：

1988年11月23日	濁河温泉より入山、八合目付近で幕営。風雪強し。
11月24日	雪。三ノ池北側(例年の場所)にBC幕営。 これ以上の行動は無し。
11月25日	降雪強く、視界無し。天候回復待つも結局沈殿。 BCにて雪洞を掘り、防風壁等作る。 夕食時コンロ不調による生ガス噴出をきっかけに(?) 天野が体調を崩す。
11月26日	25日夜からラッセルが続くが、テントが殆ど潰れた 状態になり、雪洞に移動。 夜が明けてからも風雪強く、やがて雪洞出入口が確保 出来なくなり脱出。天野が出入口で動けなくなり雪に埋没。 五ノ池小屋へ撤退。
11月27日	時々雪。濁河温泉に下山。遭難を連絡。

メンバー構成：

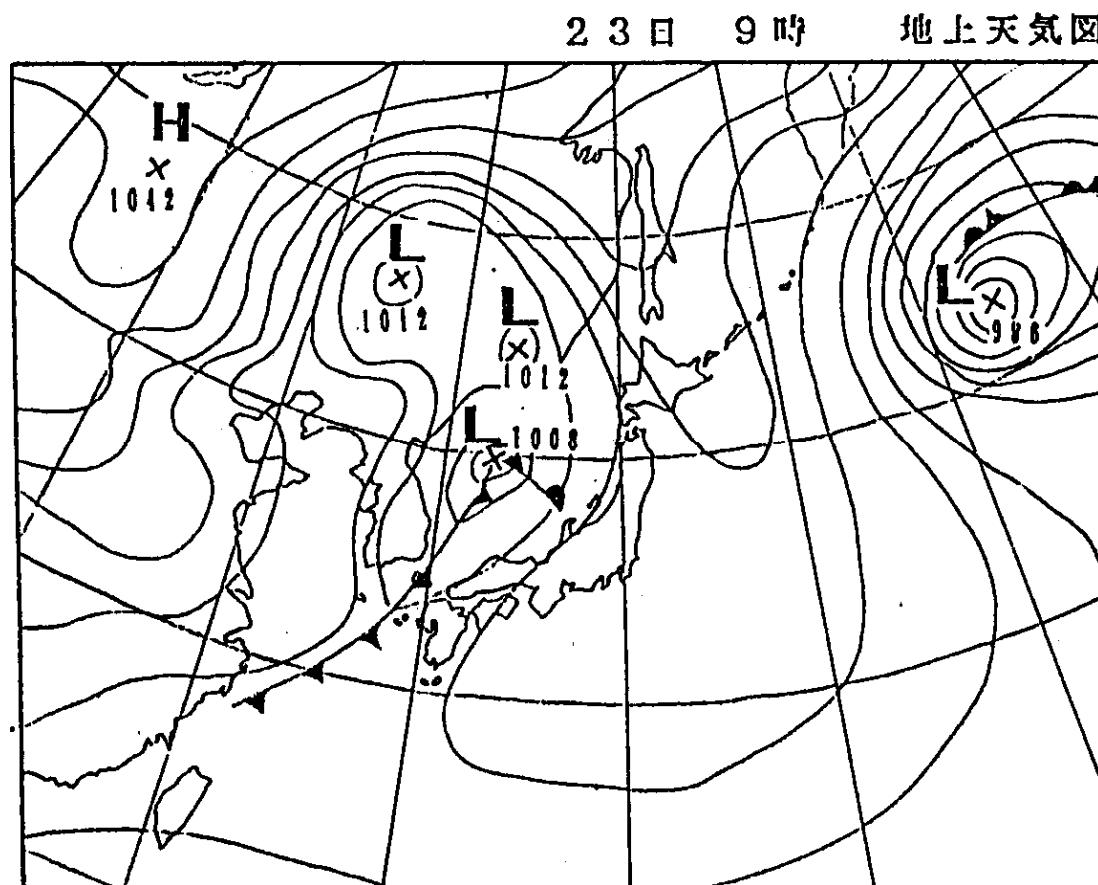
6回生：1(柴田)、4回生：2、3回生：3 2(L.天野、SL。尚、もう一名は体調不良で
入山せずに戻る。)、3回生：2、1回生：4

2. 事故概要：場所



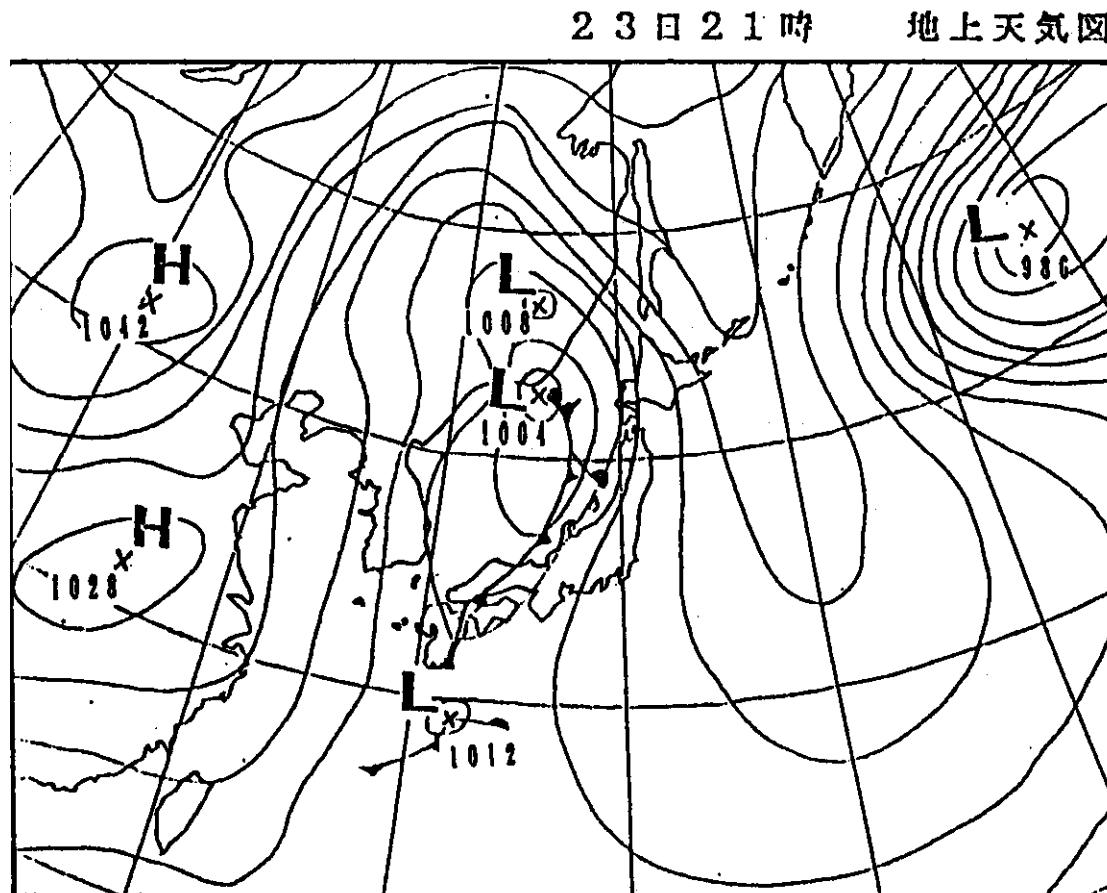
三ノ池北側
(アイゼン合宿時、
例年の設営場所)

3-1. 天気図：11月23日09時



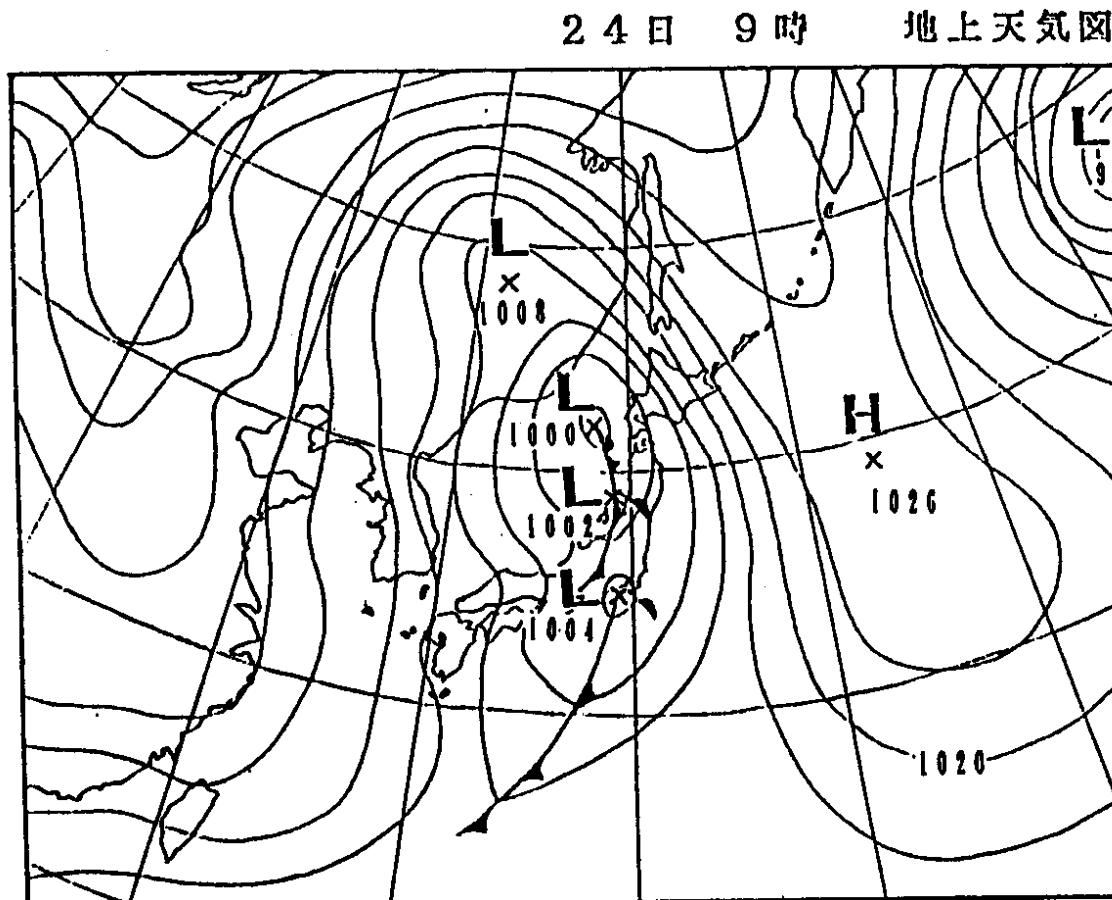
入山
11:00 潛河出発。

3-2. 天気図：11月23日21時



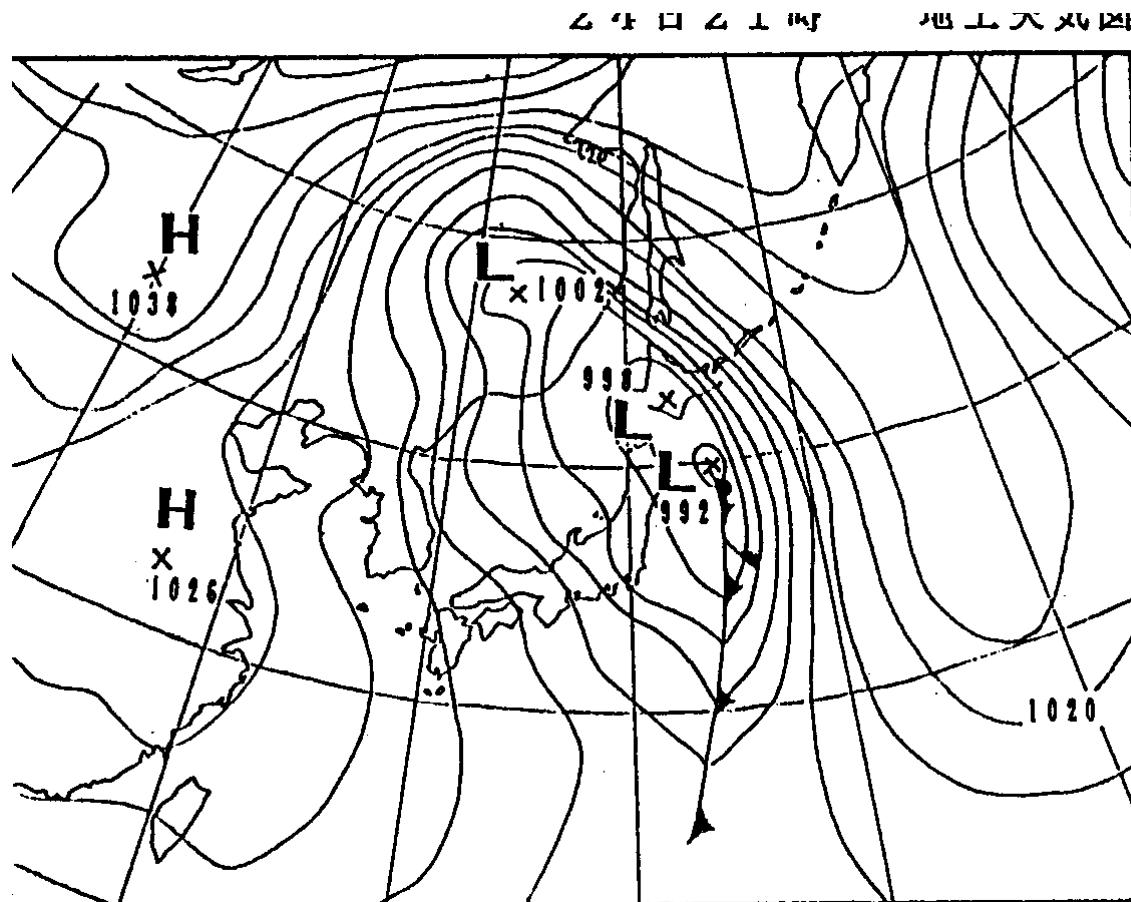
飛騨側八合目付近
(BC予定地まで入れず)
16:45 幕営。

3-3. 天気図：11月24日09時



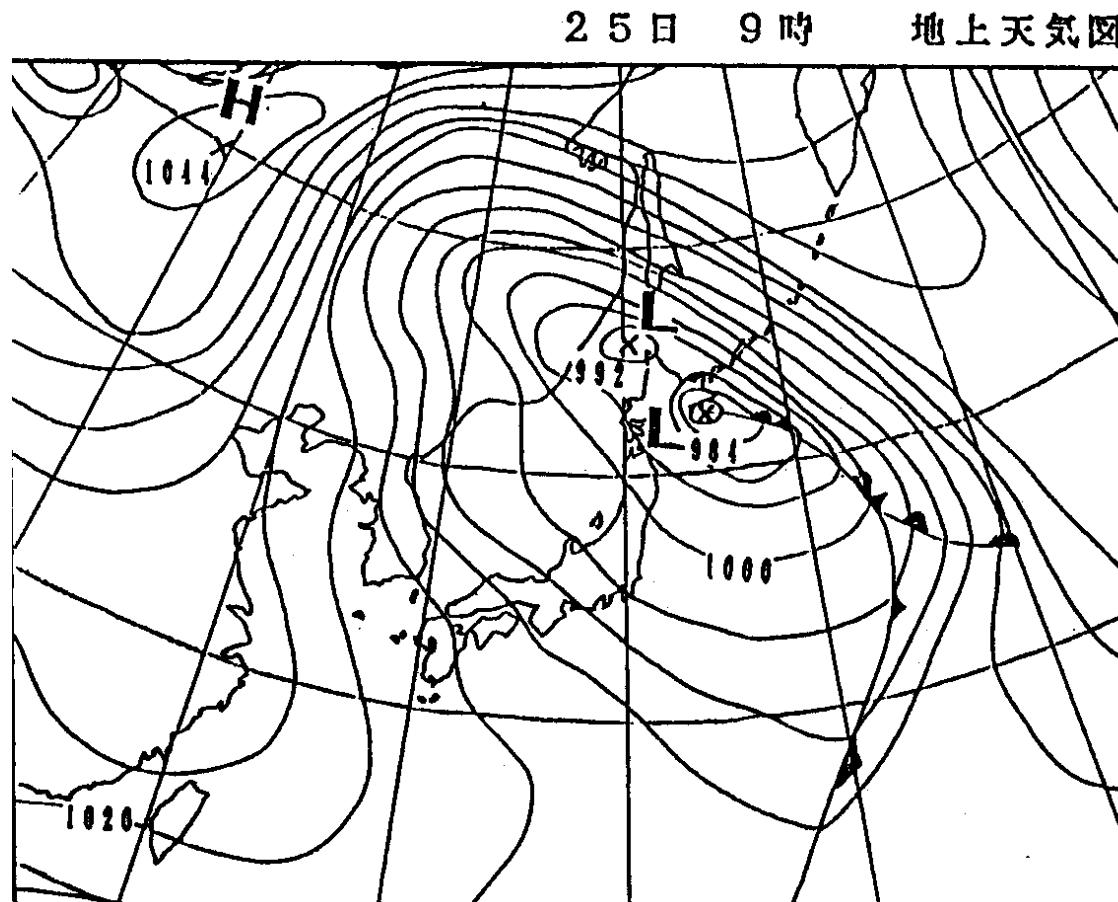
前日の幕営地出発
09:15 八合目出発。
(6時起床も上部天候
の様子見)
12:10 三ノ池到着。
BC設営。

3-4. 天気図：11月24日21時



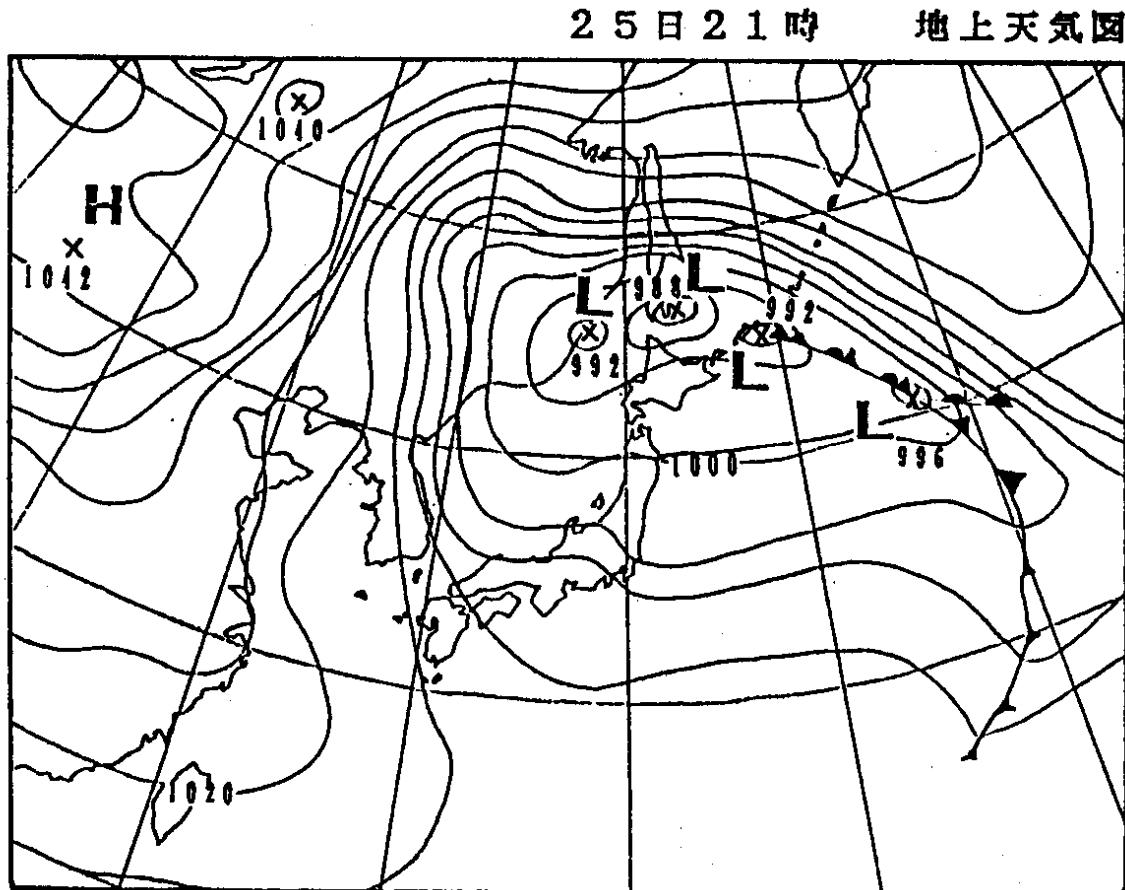
三ノ池BC
ラッセルは1度。

3-5. 天気図：11月25日09時



BC沈殿
風雪共に強し。
雪洞を練習で掘る。

3-6. 天気図：11月25日21時



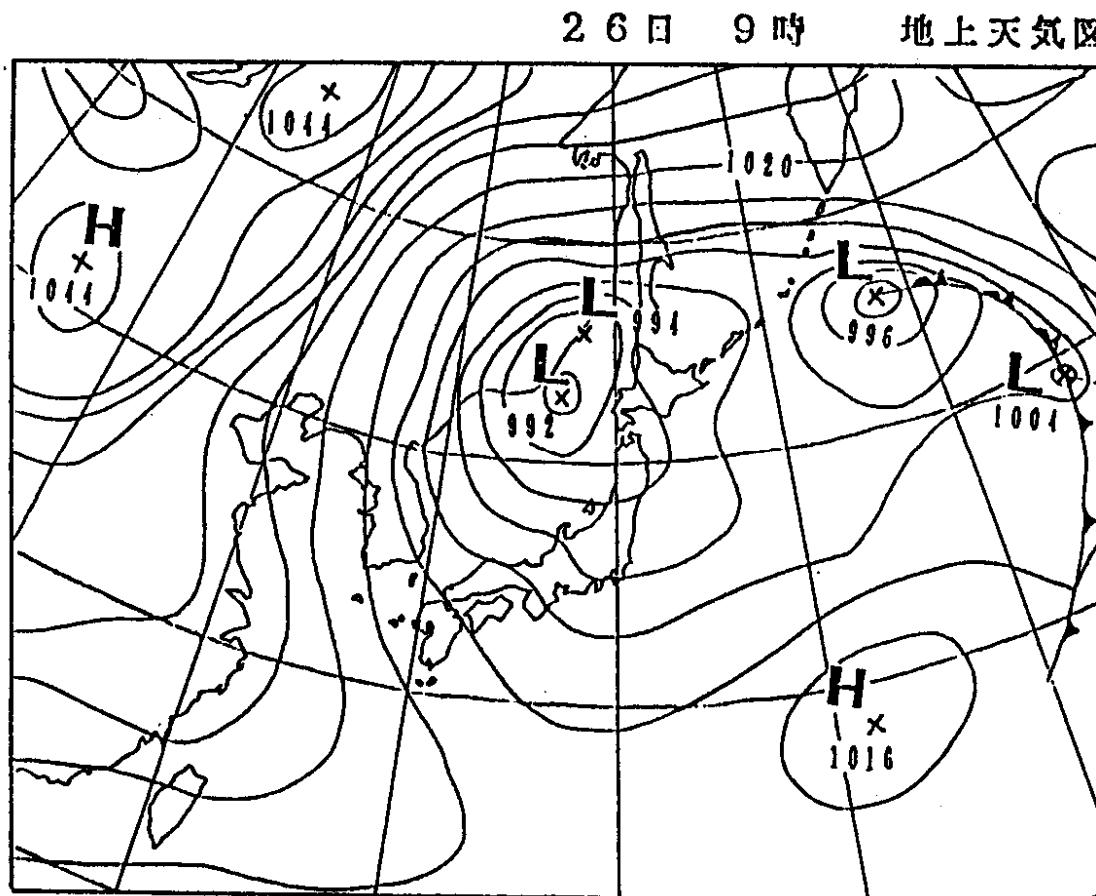
BC夜

風雪強し。

夜間ラッセルを繰り返す
が、次々テントが潰れる。

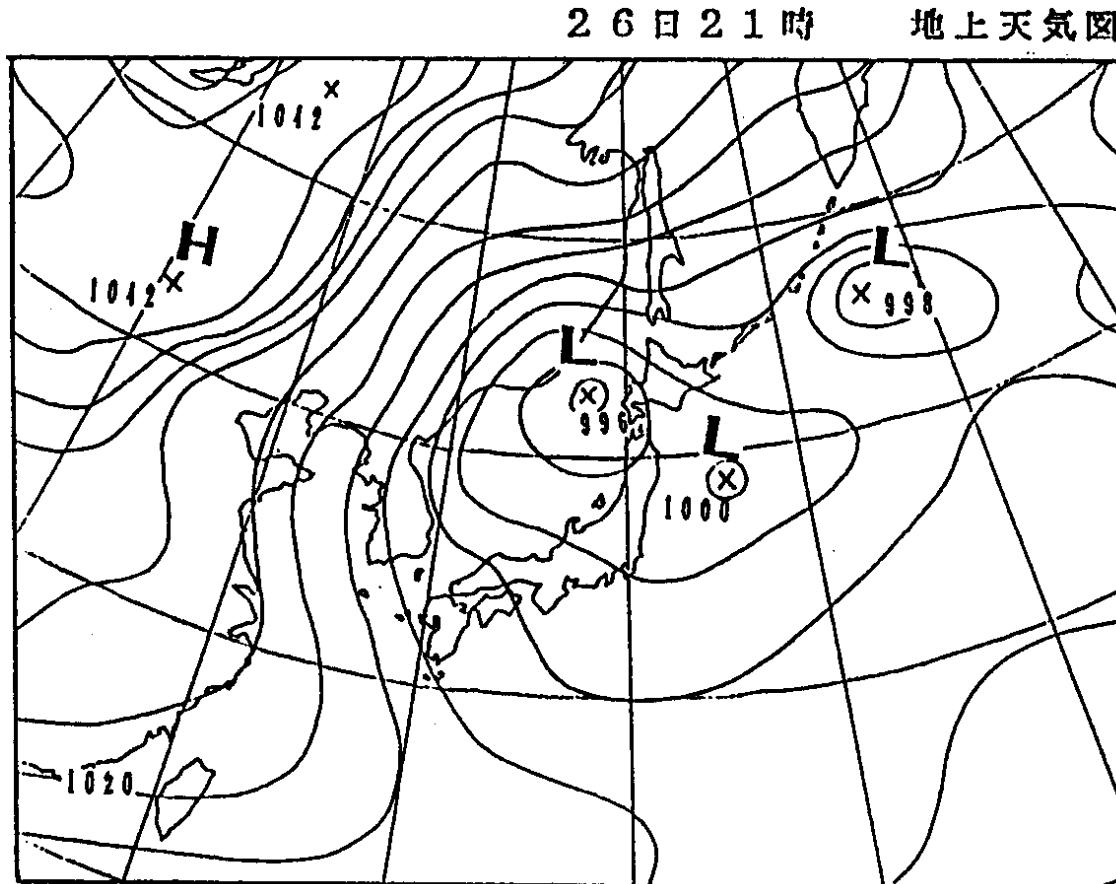
26日1:30 雪洞に移動。

3-7. 天気図：11月26日09時



- 雪洞で天候回復を待つ
風雪更に強し。
- 06:30 天野以外でテント
掘り出しを行うが、
強風雪で3時間後
断念。
- 09:30 SL大滝と野辺が
三ノ池小屋、五ノ
池小屋偵察に
出発。
- 11:00 雪洞出入口の
確保が困難に
なり脱出。
天野が入り口で
動けなくなる。
- 11:45 天野埋没。救助
を断念。
- 12:30 五ノ池小屋到着。
大滝、野辺と合流

3-8. 天気図：11月26日21時



五ノ池小屋
(翌日下山)

4. 事故概要：状況

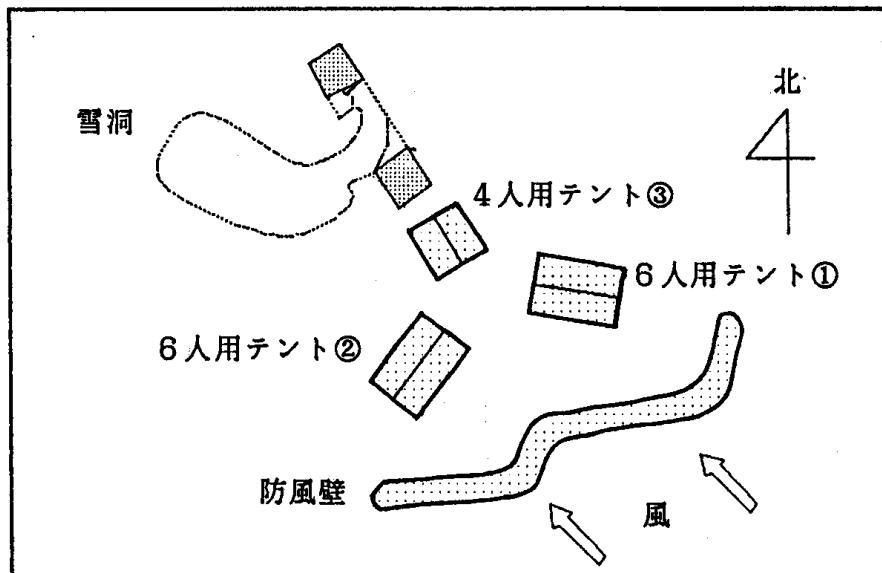
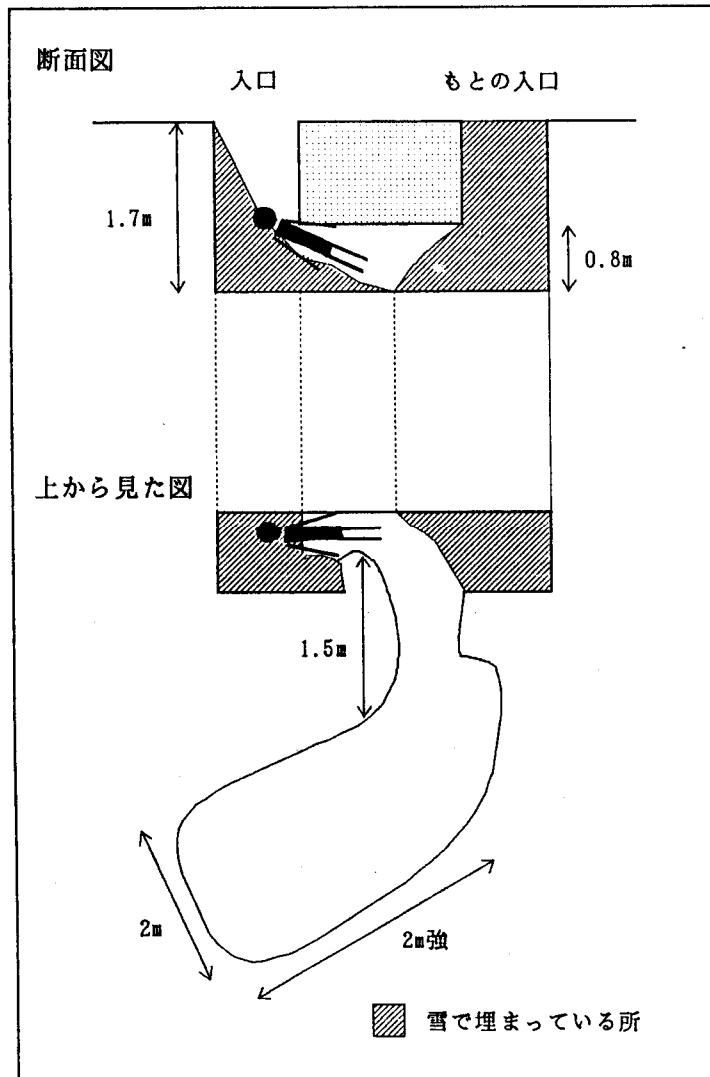


図. 3 雪洞略図



5. 事故発生までのメンバー構成変化

現 LS、 LS 経験 者 ↑	学年別 人数	入山前	入山後	事故 発生時
6回生	1	1	1	1
4回生	2	2	2	2
3回生(LS)	3	2	1	1
2回生	2	2	1	1
1回生	4	4	4	4

残っている3回生はLの天野だが、体調不良で寝込んでおり、事故の犠牲者でも有るので、事故発生時、**3回生は実質0人。**

入山の車中で1名風邪で体調悪化、入山を断念。

3回生(SL) 1名と2回生1名が小屋偵察の為別行動中。

6. 重大な問題点

反省点は非常に多いが…、

1. リーダーシップは機能していたか
2. 雪洞への避難
3. 雪洞からの脱出、事故発生時の連携

7. 反省と問い合わせ

柴田が考えてきた事について